社会福祉法人 人を支える 生活を支える
佐賀整肢学園
SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

■発　行：令和7年1月
■発行元：社会福祉法人　佐賀整肢学園
■発行者：理事長　中尾清一郎
■編　集：法人広報誌編集委員

# 学園タイムス

2025-1 Vol.43
社会福祉法人　佐賀整肢学園
Sagaseishigakuen times

「バルーン」

佐賀インターナショナルバルーンフェスタは、毎年10月下旬から11月上旬にかけて佐賀市嘉瀬川河川敷で開催されるアジア最大級の国際熱気球大会です。毎年この時期は佐賀の秋空をカラフルなバルーンが彩り、時間と共にみるみる変わる風景に、いつもワクワクさせられます。自宅から会場が近く、飛んでくるバルーンに「ここに降りてきて～！」とアピールしている1枚です。

巻頭言…2
REPORT 1…3
事業所 TOPICS…4～5
REPORT 2…6～7
タイムス特集…8
学園 FOCUS…9
「教えて！●●先生」　リレーコラム…10
ボランティア・施設見学・実習状況　みどころ…10

| 法人事務局 | こども発達医療センター | オークス | かんざき清流苑 |
|---|---|---|---|
| 〒849-0906<br>佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27<br>TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611 | 〒849-0906<br>佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27<br>TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391 | 〒849-0906<br>佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1<br>TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772 | 〒842-0107<br>佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2<br>TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977 |
| 在宅サポートセンターかんざき清流苑 | からつ医療福祉センター | からつ医療福祉センター在宅事業部 | からつ医療福祉センター好学舎 |
| 〒842-0107<br>佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2<br>TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977 | 〒847-0001<br>佐賀県唐津市双水2806<br>TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683 | 〒847-0001<br>佐賀県唐津市双水2806<br>TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683 | 〒847-0001<br>佐賀県唐津市双水2787-1<br>TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001 |
| 糸島こどもとおとなのクリニック | かんざき日の隈寮 | 佐賀向陽園 | 居宅介護支援センターわいわい |
| 〒819-1301<br>福岡県糸島市志摩井田原63-1<br>TEL092-327-0073 FAX092-327-0361 | 〒842-0107<br>佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2<br>TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229 | 〒849-0906<br>佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1<br>TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145 | 〒849-0906<br>佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地<br>TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252 |

# 2025年と私

社会福祉法人佐賀整肢学園 副理事長

からつ医療福祉センター センター長　**原　寛道**

久しぶりに新年の巻頭言を書いてくれと原稿依頼が来た。逃げ回っていたが今回ばかりは逃げおおせそうにない。さて何を書こうか？

コロナ国内第一号は2020年１月。感染力のすごさを思い知らされたのは２月のダイヤモンドプリンセス号事件。3月に志村けんさんが亡くなったときコロナの恐ろしさを思い知った。マスクも、ガウンも、手袋も入手できず、予防接種も無く、治療薬も無く、医療スタッフは徒手空拳の戦いであった。そして今年の正月で５年が経過した。いまだ散発的に流行しているが、街ゆく人はマスクを着けていない人が多くなった。年末からはインフルエンザが流行しだした。コロナ・インフルとも重症化する人が少なくなったこともあろうが、かつてほど神経質になる人は少ないようだ。去年までは ほそぼそと新年を祝う会や初詣の催しをしていたが、今年からは従来通り盛大にやれそうだ。年末は久里双水園所有の久里双水神社の鳥居の修理を笠野施設長が実施し立派に再建された。今年も無事に久里双水園のホールで利用者みなが参拝することができた。年末はコストコに二回も買い出しに行ってミニパーティーやクリスマス会抽選会を催した。だいぶんと盛り返してきたがインフルが猛威をふるっており、折角の盛り上がりに水を差している。

外国人雇用は順調に経過している。幹部職員が心のケアーを担当し、中堅職員が丁寧な on the job training をしてくれている。また住居面では外国人雇用に伴う部屋不足に対して、職員用アパートを５年前に一棟、今年度末に一棟建設中で立派な部屋を提供している。相当の配慮をしているが第一号の外国人退職者が出た。今後とも注意深い配慮が必要である。

コロナの影響でマインドが何となく冷え切って、自慢できるような大きな仕事はしなかった。あーでもないこーでもないと事務室の中で若い職員さんと構想を練るのだが、その原資が不十分である。コロナの５年間の影響でいろいろな部門にいろいろなマイナスが発生し、なお回復し切れていない。コロナ禍の中で仕事を縮小する傾向がいまだ解消できていない。入院入所利用者の減、外来患者の減、リハビリ件数の減、こうした重要な部門が自然減し回復が出来ないでいる、というか職員意識も低めに安定してしまった感がある。このままでは急激な収支の悪化が起こること確信し６月頃に自ら改善策を打ち出し実行した。おかげで回復基調にある。一方収入減に人件費増が加わっている。施設はすでに22年を経過し終末期に入った利用者さんが多くなって、昨年度以来、死亡退院死亡退所が急増した。あわてて他の関係機関回りをしてもらって入所希望者を探すのだが、入院入所を希望する方は医療的ケアー度が高い人ばかりである。こうした人が入院入所すると、人手がかかり職員増の要求が起こる。こうして収入減支出増という怖い事態が発生している。幸いに当センターには経営に熱心な医師や幹部が多く、現状を説明すると救済策に賛同して協力をしてくれる。こんな時に思う。「人材こそが経営の核心」である。

入所部門の今後の計画として医療重度の方々の受け入れ、そして動く重症児と呼ばれる行動障害をともなう重症児の受け入れも計画的に進めていく。入院入所利用者の確保の難しさは今後とも続くだろうし、それに伴う痛みもまた続くだろうが、時代に負けないように今後とも将来に渡って満床にできるハードソフトの地力をつけていく方針である。

昨年２月に、親しくしている福島の法人から８名もの幹部の方々が当センターへ経営の勉強に研修においでになった。慢性的入所者不足に伴う赤字に悩んでおられる施設だ。どうしたら黒字にできるか教えて欲しいとの切実なテーマである。三日間の研修の機会を提供した。まずは中核となる医師の確保だ。働かない改革が流行するこの時代にあって、これまで以上に働いてくれる医師を確保することは至難の業であるが、小規模重症児施設が生き残るためにはどうしても中心的リーダーを確保しなければならない。しっかりと選定し、その次にはありとあらゆる原資をこのリーダー確保に投入する覚悟が必要だ。次にこのリーダーを支えるサブリーダーの育成と、それを支える一般職員の熱意、これこそが経営であるということをお示しした。経営再建されることを願う。

一方在宅事業に目を転じれば、当センターは開設以来多種の在宅事業を展開してきたが、佐賀県北部という人口が少ない地域に立地しており、県庁所在地の佐賀市ほどの条件が整わない。身体障害者グループホームの増設などすぐに思いつく事業はあるが、人口的に無理があるので建設費が高騰した今は慎重にならざるを得ない。地域からの要望である高齢者事業も準備を始めたい。また知的障害については未就学児童までは熱心にやっているがその後のケアーができていない。これも取り組んでいきたい。あれこれアイデアが先行し手順が定まらないが次年度はその基礎となる用地取得を開始したい。

## 懇親会

### 外国人材懇親会

７月１日オークス利用者食堂では、利用者の方々の夕食終了後、日本語、ネパール語、ミャンマー語などが賑やかに響き渡っていました。

佐賀整肢学園に所属している外国人留学生27名、法人各施設の職員35名が集まり新型コロナ感染症の流行以来初めての懇親会です。

原副理事長より開会の挨拶をいただき、かんざき清流苑江口施設長の乾杯のご発声後、食堂中央の長テーブルに並んだ、シーフード焼きそば、ピザ、サラダ、炭火焼き肉、フルーツにデザートなどのごちそうに舌鼓を打ちました。

佐賀整肢学園の法人各施設に多くの留学生が所属しているにもかかわらず、コロナ感染症の影響もあり一度も留学生全員が顔を合わせる懇親会を開催できずにいました。このたび各施設の施設長のご理解と、職員の応援もあり、念願の懇親会を開催することができたのです。

留学生の方数名に感想を聞きましたが、「お料理がたくさんあって、どれもおいしかった」「卒業してなかなか同級生に会えてなかったので、久しぶりに会えて良かった」「お土産もたくさんあってよかった」「また、開催してほしい」などの感想を聞くことができました。

近年介護職を目指す学生が少なくなり、その流れで私たちの職場では介護職員の人材不足に悩んでいました。佐賀県では介護施設等への多様な人材の参入を促進するために介護福祉士資格取得を目指す留学生を支援し、介護の専門職として佐賀県内の事業所に就職する制度があります。その制度を利用し佐賀整肢学園では2020年からミャンマーやネパールからの留学生を受け入れるようになりました。今年で４年目になり27名の留学生が法人各施設のサポートを受け、学校で介護職員としての勉強に励み、卒業後は介護職員として我々と共に勤務しています。言葉も文化も違う日本に来て戸惑うことや不安になることも多いでしょうが、皆さんはいつも笑顔で一生懸命勤務されています。

遠い国から日本に来て同じ学校で勉強をし、同じ法人内の施設で仕事をしているという不思議な縁を大切にして、これからも佐賀整肢学園の仲間として一緒に末永く働いていきましょう。

（オークス　副施設長　岩瀬　静奈）

## 研究大会

### 第 47 回九州地区救護施設職員研究大会

７月に、第47回九州地区救護施設職員研究大会が鹿児島県で開催されました。今回のテーマは「地域共生」でした。自身の施設で何を行っているかを改めて考えた時に、私自身が日の隈寮の防災を担当していることもあり、「地域に必要とされる施設を目指して～地域の防災拠点としての取り組み～」をタイトルに意見発表を行いました。

日の隈寮が位置する鶴西地区はハザードマップによると、浸水想定エリアとなっているため、施設機能を活用しながら、より安全な地域づくりに貢献できることを目指しています。地域の方々に、日の隈寮をより身近に感じてもらい、災害の危険度が増す前に気軽に避難し、安心して過ごしてもらえるような、地域の防災拠点になったら良いなと思っています。

今回の意見発表では優秀賞を受賞することができました。研修を通して、様々な施設の方と交流するなかで、各施設での地域との関わり方など、多くの情報を得ることができ、大変有意義な時間となりました。学んだ事を業務に活かし、今後の地域貢献に繋げていければと思います。

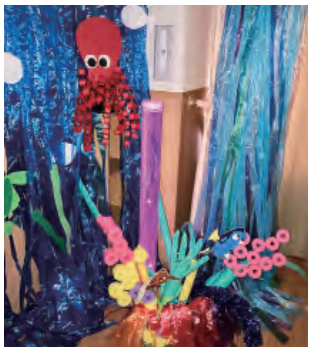
（かんざき日の隈寮　主任　黒岩　友樹）

## この夏、第２が海になる　8月

こども発達医療センター

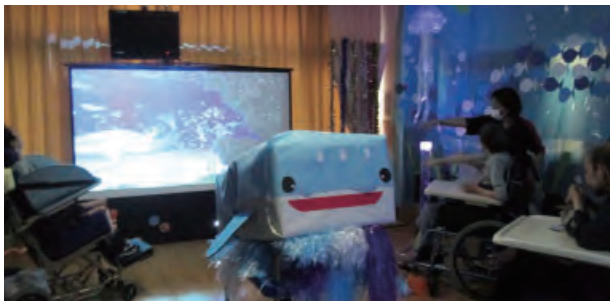
８月29日、第２病棟では「ダイニワールド」と称し、水族館を Open しました。

今年の夏も暑い日が続き、利用者の皆さんや職員に癒しと涼しさを届けたくて、部屋に天井から床までたくさんのスズランテープを使用し海の中を再現しました。水族館へ向かう廊下にもスズランテープとイルミネーションを使い、涼しさを演出しました。入場券を入口で渡し、大きなサメの口から中へ入ると中央でジンベイザメがお出迎えします。順路を辿っていくと、熱帯魚や、タコ、イカ、クラゲとたくさんのイワシの群れが…。サンゴ礁の間からニモも顔を出していました。おやおや…シュノーケリングをしている人もいますよ。部屋の奥にプロジェクターから海の映像を流し、冷房の温度を少し低めに設定し、アロマを使って嗅覚に、イルミネーションを使って視覚に、流れる音楽で聴覚にと、いつもとは違う雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。



準備は大変で時間もかかりましたが、利用者の方々の「わぁ～」と言う歓声と、喜ぶ顔を見ることができて、私たち職員も癒されました。

（第２療育課　副主任　松尾　圭子）



## 金立小学校敬老交流会　10月

佐賀向陽園・わいわい

10月２日、約４年ぶりに金立小学校の４年生との敬老交流会を開催させていただきました。

児童の皆さんによる よさこい披露ではあふれんばかりのパワーに利用者の皆さんのみならず職員も元気をいただきました。交流時間では児童の皆さんと魚釣りゲームやかるた等を一緒に楽しまれ、交流再開を心から喜ばれている様子がうかがえました。

また金立小学校ではアルミ缶収集に取り組まれており、その資源をもとに車いすを1台寄贈していただきました。当施設でも車いすは必要不可欠であり、今回の寄贈はとてもありがたいものとなりました。これからも地域とのつながりを大切に、この交流会を継続していきたいと思いました。

（入所サービス課　生活相談員　森　紋加）

# 事業所 TOPICS
（8月～11月）

## 秋桜ドライブ　10月

グループホームでは、10月24日に秋桜見物ドライブに行きました。秋桜見物では毎年、秋の旬の食材を使い利用者の方と一緒につめた手作りお弁当を持参し、仁比山公園で食べています。今年はさつま芋や栗の他、利用者の方のご家族様から頂いた銀杏や冬瓜も使ったお弁当となりました。

利用者の方の「出発進行―！」の合図でドライブがスタートし、地域で秋桜が咲いている神埼駅や金立公園を回りました。車中でも「きれいかね～」「珍しか色の咲いとるね～」等、それぞれ楽しんでお過ごしの様子でした。

仁比山公園でのお弁当も皆さん水車や景色を眺められながら「美味しいね～」「さつま芋は、よー食べよったよ」とお話が弾まれていました。食後もお話されながら、のんびりゆっくり過ごされました。

ドライブ後は、その日に撮ったビデオを観て今日の出来事を振りかえりました。「今度はどこに行こうかね～」とビデオに映ったお姿を嬉しそうに観られていました。

グループホームでは季節ごとに四季を感じるドライブやイベントを行い様々な場所を回ったりしています。神埼周辺の地域は四季を感じる場所がたくさんあり、のどかで良い場所です。

### かんざき清流苑

今後も季節を感じるドライブ、イベントや利用者の方、一人一人の笑顔を引き出せるような支援を行い、利用者の皆さんと一緒に楽しい日々を過ごせたらと思います。

（在宅サービス課　主任　大石　恭子）

## 第２回神埼市合同文化祭　10月

今年、日本舞踊の藤間静浄先生のご推薦で、かんざき日の隈寮日舞クラブは、神埼市文化連盟様より永年功労賞を受賞しました。静浄先生には平成元年からご指導いただいています。35年間の日舞クラブの活動が表彰され、これまでの歴史を振り返りつつ、これからの気持ちも新たに今回の文化祭に参加することができました。

ステージ部門では、「下北小唄」を披露しました。待ち時間にはお忙しい先生方が足を止めてくださり、着付けの直しや、振り付けの確認をしていただきました。本番直前には緊張から涙を流される利用者の方もいましたが、ステージ上では皆さん練習の成果を発揮し、見事な舞を披露されました。緊張されていた方も、終わったあとは笑顔でほっとされた様子でした。「練習では気持ちが折れそうだったけど、頑張った甲斐があった」、「努力が報われた」と話され、達成感を感じられている様子でした。職員は舞台袖と観覧席で見守りを行いました。その両方から「日の隈寮の人はすごいね！」、「みんな動きが揃っていて、綺麗！」等々お褒めの声を地域の方よりたくさんいただきました。

展示部門では、自身の作品を見つけると笑顔になられ、利用者の方同士、「上手だね」、「すごいね！」など、褒め合っていらっしゃいました。長年地域の文化祭に参加させていただき、地域の方々の演目や作品から様々な刺激をいただいています。今回日舞クラブの表彰もあり、利用者の皆さんが地域で輝かれることが何年も続いていくといいなと思います。

（入所サービス課　生活支援員　食場　まどか）

### かんざき日の隈寮

10月に佐賀県内で開催された「SAGA2024国スポ・全障スポ」
佐賀整肢学園でも、多数の競技やボランティアで沢山の方々が参加し、健闘されました。
また利用者の皆さんと職員も試合を観戦したりと、大いに盛り上がりました。
今回は、選手・監督・スタッフ・県の企画応募で採択された職員、利用者の方にインタビューしました！

# SAGA2024 国スポ・全障スポ

## ボッチャ　選手・監督

初村　綾仁 さん
（オークス　利用者）

高島　隼平 さん
（オークス　在宅サービス課
地域支援係　児童発達支援管理者）

**Q 今回銀メダルを獲得してどんな気持ちですか？またどのような思い出になりましたか？（初村選手）**

A 金メダルを取るつもりで臨みました。結果は銀メダルでしたが、2023年の鹿児島大会よりもいい成績だったので、悔いはありません！高校生活最後に銀メダルを獲得でき、とてもいい思い出になりました。

**Q ボッチャをいつから始めたのか、また始めたきっかけを教えてください（初村選手）**

A 中学１年生のときにボッチャを始めました。競技に選手として出場したのは高校１年生です。こどもセンターの職員さんに薦められて始めました。それからは、オークスの放デイでレクリエーションの時間にボッチャをしていました。指導員をしている職員さんが近くにいてくれたし、ボッチャに触れる環境が身近にあったので続けられています。

**Q ボッチャの魅力をぜひ教えてください（初村選手、高島監督）**

A （初村選手）ボッチャは頭脳戦です。いかに勝つかを考えながらプレーすること、最後まで何が起きるか分からないドキドキ感が魅力だと思います。
（高島監督）障害の程度を問わず平等に競技を楽しめて、自分が持てる力を使って皆が平等に関われるところが魅力だと考えます。

**Q 監督として指導するにあたり気を付けていること、工夫していることを教えてください（高島監督）**

A 選手達は慣れない環境のなかでプレーをするので、ストレスが溜まるなどコンディション維持が難しいです。万全な状態でプレーするために、食事や睡眠に十分気を遣い、特に生活面での支援に力を注ぎました。また、選手と関わる全ての方とコミュニケーションを図ることで、選手のモチベーションの向上に努めました。

**Q 今後の目標やどんな活動を考えられているか教えてください（初村選手、高島監督）**

A （初村選手）全国大会に出場して、もっと活躍してボッチャの魅力を広めていきたいです！ボッチャのおかげでいろんな方と関わることができました。出会った方々との出会いを大切にして、これからもボッチャを続けていこうと思っています。
（高島監督）初村選手の活躍がメディアに取り上げられ、反響が大きかったです。小さなこども達もボッチャに興味を持ってくれているので、もっとボッチャの魅力が広まればいいなと思います。また、佐賀整肢学園全体でボッチャをはじめパラスポーツに関わっていけたらと考えています。

## アーチェリー　選手

宮原　唯希 さん
（からつ医療福祉センター
入所サービス課　生活支援員）

**Q 今回、佐賀県での開催でしたが、アーチェリー会場の雰囲気はどんな感じでしたか？**

A 地元開催だったため、たくさんの方から声をかけてもらうことができました。その分プレッシャーもありましたが、今までの他県での試合よりは緊張せずにリラックスして参加することができました。会場には地元の方など知らない人もたくさん応援にきてくれて、アットホームな雰囲気でした。佐賀県勢が競技する場所を知ってくれていて、応援の声が届きうれしかったです。

**Q 仕事と国スポ選手との両立はどんなことが大変でしたか？**

A 練習はチームの２人が佐賀市在住のため、休みの日は朝から夕方まで佐賀に行って練習をし、大会前の1週間は仕事終わりに佐賀まで行きました。シフトは特に変更してもらわず、仕事をすることで息抜きにもなるので、いつもどおり夜勤もしました。夜勤明けだと、練習に行っても次の日が休みなので割と練習しやすかったです。

**Q 最後にご自身のアーチェリーに対する思いをお聞かせください**

A 今回の国スポで引退します。周りには言っていませんでしたが、佐賀県の国スポで引退しようと決めていました。今はやりきったという思いです。アーチェリーをはじめたのが高校1年生で、競技を始めてすぐに出たインターハイも佐賀県でした。競技人生の最後も佐賀で終わることができ、佐賀にとても縁のある競技人生だったと思います。最後の締めくくりがいい試合になり、とても満足しています。

## なぎなた　競技役員

**Q なぎなたとの出会いはなんですか？**

A 高校入学時の部活勧誘で「弓道」と「なぎなた」を間違えて入部しました。私の現役時代は競技人口が少なく、高校の3年間と一般として全国各地の大会に出場させていただきました。

**Q 「国スポ・全障スポ」への参加のきっかけは何ですか？**

A 私のライフスタイルの変化で「なぎなた」と離れる時期がありましたが、お世話になった先生方よりお声がかかり、佐賀県で開催される大会の「救護員」をしてきました。５年前からは「国スポ・全障スポ」へ向け、競技役員の準備をしてきました。

佐賀新聞 号外
なぎなた 少年女子V
試合、10年ぶり3度目

松石　麻矢さん
（こども発達医療センター
第1療育課　課長）

**Q 「国スポ・全障スポ」の中でどんなことをされましたか？**

A 「速報委員」主任として、全試合結果の印刷と配布を行う役割でした。一般と高校生の補助員総勢20名で力を合わせスムーズに情報をそれぞれの部門に届けることができ、佐賀県の総合優勝という結果の喜びと感動、達成感を得ることが出来ました。

## IDEA　企画・採択

**Q みんなで前例のない新しい大会をつくるため「スポーツ」だからこそできることをテーマにアイデア募集された PROJECT　IDEA2024。なぜ IDEA2024 へ提案、応募をしようと思いましたか？**

A 令和５年５月に SAGA アリーナグランドオープン式典へ参加し、学生や若年世代の吹奏楽やダンス等のデモストレーションに感動し大きく心動かされました！50年に一度の大会でもあり、年齢を重ねた自分も誰かの刺激になる事はないかと考え、「もっとみんなで盛り上げていきたい！」と思い応募に至りました。

小松　俊介さん
（佐賀向陽園・
わいわいデイサービス係　介護職員）

**Q どのような IDEA を応募されましたか？**

A 「世代を超えた共演　世代を超えたリレー！」で自分自身がマラソンをしており、一人ではなく、世代を超え、またスポーツが苦手とする人も年齢関係なくみんなで一緒にスポーツを楽しめるような IDEA を応募しました。
「みる」「する」「支える」の想いを込めました。

**Q 小松さんにとって SAGA2024はどのような大会でしたか？**

A 大会運営ボランティア活動や、開会式・閉会式等の式典へ招待していただき「人生の大きな財産」となりました。競技である以上勝敗がついてしまいますが、勝敗に関わらず観客からの声援や拍手は選手たちの力になる事に気づかせてもらった大会となりました。

## お成り

### 彬子女王殿下お成り

佐賀県では 10 月に SAGA2024（国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会）が開催されました。この SAGA2024 開催に伴い、皇室の方々の地方事情御視察の一環として、10 月 11 日、彬子女王殿下が当センターに御来園されました。

御視察では、まず窪田センター長による施設概要説明から始まり、次にＰＴ、ＯＴ、ＳＴの訓練士による機能回復訓練、重度心身障害者が多く生活する第 3 病棟の看護状況の御見学、そして最後に第 1 病棟の子ども達のボッチャ御見学及び御体験をしていただきました。

ボッチャ御体験では、５名の子ども達と交流をしていただきました。子ども達は最初は緊張した様子でしたが、彬子女王殿下より「よろしくお願いします。」と優しいお言葉をかけていただいたことで緊張もほぐれ、楽しく競技をすることが出来ました。

当法人では昭和 36 年 4 月の昭和天皇・皇后両陛下行幸啓をはじめ、多くの皇室の方々に御視察をしていただいており、今回の御視察も当法人の新たな歴史となりました。今後もこれまで同様、企業理念の「利用者本位」のもと、利用者の皆さんの生活の支えとなるよう努力を惜しまず、日々の支援に努めてまいります。

最後になりますが、この貴重な機会をご支援いただきました、佐賀県庁、佐賀県警のご担当者の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

（法人事務局　係長　姉川　政嗣）

# タイムス特集

令和５年度の「学園タイムス」は、Vol.38 ～ 41 を発刊しました。職員から応募があった表紙写真を振り返ります。

平成27年度から始めた表紙写真の公募も、令和５年度で９年目を迎えました。「佐賀・糸島で撮影した写真」を条件として、自由なテーマでの募集したところ、四季折々の表情を楽しむことが出来る、魅力的な写真をたくさん応募いただきました。応募していただいた皆さんありがとうございました。写真が採用された職員には後日記念品を贈呈致しますので楽しみにお待ちください。

今年度も引き続き表紙写真を職員より募集します。採用された方には記念品を贈呈させていただきます。詳細は下記の募集要項をご確認下さい。

「佐賀の魅力」
撮影：江﨑　大志さん
（こども発達医療センター）

「かみさまがすまう森」
撮影：江﨑　大志さん
（こども発達医療センター）

「川古の大楠」
撮影：江﨑　大志さん
（こども発達医療センター）

「フォレストアドベンチャー・吉野ヶ里」
撮影：田中　潤さん
（かんざき日の隈寮）

## 令和５年度　その他の応募写真

やまびこの湯玄関の花

夕日と呼子大橋

神野公園の桜

佐賀空港公園コスモス

## 表紙募集について

これからも表紙写真を大募集します！テーマは問いません。たくさんの方に気軽に応募していただけたら、という思いから、このようなかたちをとっています。

条件は「佐賀・糸島でとった写真であること」。風景はもちろん、食べ物や飲み物、催事など、佐賀や糸島の魅力が伝わってくる写真を募集します。締切もありませんので、いつでも、何でもお気軽にご応募ください。もちろんスマートフォンで撮った写真も OK です。たくさんのご応募、お待ちしております。

上記 QR コードから
メールで簡単に応募できます！

ご感想やお問い合わせ、また特集内容のご要望や学園 FOCUS の自薦他薦についても、各事業所の編集委員までお気軽にどうぞ。

編集委員一同

| | | |
|---|---|---|
| ●法人事務局 | 姉川　政嗣 | 森田ゆかり |
| ●こども発達医療センター | 式町あさか | |
| ●オークス | 佐藤真理奈 | |
| ●かんざき清流苑 | 竹下亜由美 | |
| ●からつ医療福祉センター | 田中　邦典 | 山口　未佳 |
| ●かんざき日の隈寮 | 口石　美優 | |
| ●佐賀向陽園・わいわい | 内村美沙子 | |

# 学園FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人達に焦点を当てる「学園FOCUS」。

今回は、オークス　就労継続支援Ｂ型　ビーンズ　の皆さんに椎茸栽培について、こだわりの栽培方法、今後の展望など熱く語っていただきました！

オークス
就労継続支援Ｂ型
ビーンズ

**Q 椎茸栽培を始めたのはなぜですか？**

A 整肢学園の所有している土地に小さな林があり、かねてより有効活用したいと考えていました。整肢学園の職員に椎茸栽培をご家庭でされている方がおり、アイデアをいただいたところから始まりました。

ビーンズでは、年間を通して野菜の栽培をしています。椎茸栽培を新しく始めることで、利用者の方の工賃の向上につながるのではないかと考えたからです。

**Q 栽培する椎茸にはどんな種類があるのですか？**

A 椎茸には２種類あり、原木椎茸と菌床椎茸に分かれます。原木椎茸は艶のある茶褐色で色味もよく、肉厚で風味や香りにも優れています。森のなかで、自然の気象条件を利用して栽培される原木椎茸は、１年のうち春と秋にだけ発生します。

それに対して菌床椎茸は人工栽培で、３～６か月ほどのサイクルで次々に収穫できます。一年中「生椎茸」の状態で流通させやすいのが菌床椎茸の利点ですが、「菌床椎茸」では「原木椎茸」のうま味、香り、栄養には勝てないといわれています。

幸い、整肢学園には椎茸に適した好条件の林があったため、原木椎茸の栽培に踏み切りました。

**Q 椎茸の初収穫までにどれくらいの期間がかかったか教えてください**

A 種駒（椎茸菌を培養した小さな木片）を打ち付けてから約１年で収穫できます。本格的に収穫ができるのは秋ごろになります。

**Q 椎茸栽培でどんな作業に手間がかかったのか、どんなところが大変だったのか教えてください**

A ３月からホダ木に種駒を打ち付ける作業を始めます。最初に直径10センチ、長さ１ｍ程度の椎の木に10㎝間隔で６列ほど種駒を打ち込みますが、打ち込む穴は専用の錐（キリ）で開けます。１度に200本ほどのホダ木に打ち込みますので、非常に手間がかかり、根気が要る作業です。

菌を打ち込んだホダ木はたっぷり水をかけて木陰に積み上げて遮光ネットをかけ、仮伏せをします。3か月ほどすると、今度は合掌積みの本伏せにしますが、ホダ木は１本が10～20kgと重く、一昨年は200本、今年は150本と毎年、１ｔ～２ｔの木材を一本ずつ手作業で積み上げたり、組み替えたりする作業がとても大変です。

また、椎茸は発生に条件があり、湿度は50％以上、10～20℃程度が適温で、５～32℃の範囲で成長します。５℃以下の低温には強く、32℃以上の高温には弱いです。日中の寒暖差と雨がトリガーとなって発生します。秋と春に最低温度が15℃以下の日が３日続き、雨が降ると発生が促されます。さらに、嵐や衝撃にも敏感で、ホダ木に刺激を加えることでも発生を促すことができますが、菌床栽培とは違い、収量を安定させることが難しく、ホダ木の観察が欠かせません。

**Q 椎茸のおいしいおすすめの食べ方を教えてください**

A 生椎茸であれば、何といっても炭火焼です。熾火（おきび）の網の上に石突（いしづき）を上にして置き、水分がにじみ出るまで焼いたら、バターと醤油または、ポン酢でお召し上がりください。肉厚でジューシーな椎茸の出汁が口いっぱいに広がり、シャキシャキの歯ごたえがさらに食欲をそそります。

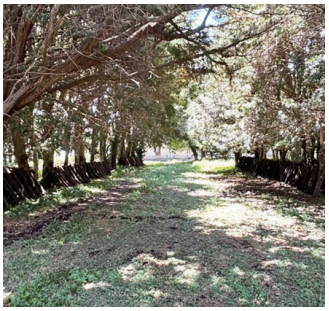
**Q 今後の展望を教えてください**

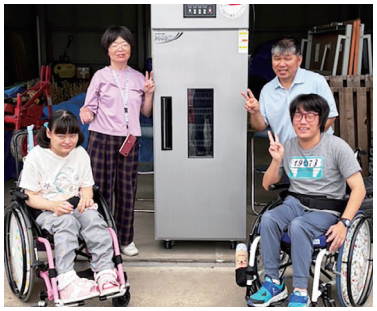
A 現状、１年間に200本ずつ増やしていき、1000本までホダ木を増やしていきます。１本のホダ木の寿命は５年程度と言われていますので、５年サイクルで入れ替えをしていきます。

栽培した椎茸はビーンズで販売するほか、出荷数量が安定すれば、スーパーや市場への出荷を考えています。また、不成形や規格外のものも無駄にしないよう、乾燥椎茸として販売するため、野菜乾燥機を購入しました。

野菜乾燥機の購入に際しましては、「赤い羽根共同募金」より補助金をいただき、準備を進めさせていただきました。（購入価格 :649,000円　補助金額 :300,000円）椎茸の乾燥に限らず、ビーンズで栽培している野菜も乾燥野菜にして新しい付加価値をつける一助になればと考えています。

最後に、この場を借りて赤い羽根共同募金に寄付をしてくださった方々への感謝をお伝えするとともに、職員、利用者一同、希望に胸を膨らませて取り組んでいきたいです。





静岡製機株式会社
電気乾燥機 DSJ-10-3

# 教えて！●●先生　第６回「うちの介護現場から」

**施設入所中の利用者の皆さんには出張の理髪サービスをご提供しています。下部の「協力ボランティア」の欄に記載していますように、各施設で理髪のボランティア団体にご協力いただいています。**

佐賀向陽園では月1回「動くヘアーサロン」がやってきます。車両の中が理美容室。明るい空間で心も髪型もスッキリしていただきます。オークスでも２カ月に1回、それぞれ理髪６人・移動美容室３人の理容師・美容師の方にボランティアでご来園いただいています。車椅子のままカットとシャンプー。さっぱりして利用者の皆さんからも笑顔が溢れます。他にも各施設で理美容ボランティアの方々に長年ご協力いただいています。

私たち介護現場は、多くの地域の方々の支えで成り立っています。利用者の皆さんを笑顔にするために、その技術でご支援いただき大変感謝しています。今後もご協力をよろしくお願いいたします。

# Relay Column　リレーコラム

糸島こどもとおとなのクリニック
在宅福祉課　放課後等デイサービス係
児童指導員
田中（たなか）　望（のぞむ）

私が、つい三年前にウクレレを始めたのは、父がギターを弾けなくなったからです。

認知症を発症した後も二年間は、二人三脚での練習の成果を発揮し、コンサートの特別枠で出ていました。横で父の肩を叩いてリズムを刻み、歌詞を歌ったり楽譜を指差したりしながら、ギター演奏ができていました。

その後、在宅介護５年目で、父の認知症は進行し施設入所となりました。コンサートの主催者に、不参加を申し出、もの凄く残念がられました。

弦楽器の苦手な私ですが、ふと「６弦のギターは無理でも、4弦のウクレレなら何とか代理で弾けないかな？」と、実家のウクレレの事を思い出しました。この時点でコンサート前２ヶ月。簡単な練習本で、その後毎日練習に取り組みました。曲はゆずの「栄光の架け橋」。

主役が交代した本番は、「いくつもの日々を越えて、たどり着いた今がある・・」という、栄光の架け橋の歌詞そのもの。会場の雰囲気に緊張して、何度も間違えつつも弾き終えると、割れんばかりの拍手。後日、コンサートでの代役を無事に終えた事を父へ報告すると、喜んでくれました。

今年で三年目の現在も、一日も欠かさずウクレレの練習は続いています。今年のコンサートは10月27日。８月に92歳で星の世界へと旅立った、父へ万感の思いを込めて、「星屑のステージ」を弾く予定です。

NEXT…こども発達医療センターのあの人にバトンタッチ!!

## 令和６年８月～令和６年 11 月

| | | |
|---|---|---|
| 協力ボランティア | 【こども】 | 清和高校様（利用者支援）、整肢学園友の会様 ( 理髪時の清掃 )、親和会様 ( 理髪 )、九電工様（設備清掃）、佐賀女子短期大学様（秋祭り）、西九州大学様（秋祭り）、佐賀女子高校様（秋祭り） |
| | 【オークス】 | 原理容店様（理髪）、ヘッズファクトリー様（移動美容室） |
| | 【からつ・好・糸】 | か）唐津理容組合（理髪） |
| | 【清流苑】 | ビハーラ神埼様（法話）、美智の舞社中様（日舞）、ひょっとこの会様（踊り、歌、手品）、出張美容サービス　ＨＡＩＲはぁーと様（美容） |
| | 【日の隈】 | 藤間静浄様、大田真智子様(日舞クラブ)、髙口美奈子様(フラワーアレンジメントクラブ)、友近やっくん様(ライブ)、西九州大学様(利用者支援) |
| | 【向陽園】 | 佐賀少年刑務所様（訪問理容）、有限会社ファニー企画様（移動理美容）、浄土真宗佐賀教区巨勢組様（法話） |
| 施設見学来訪 | 【こども】 | 白石町民生児童委員協議会 14 名様 |
| | 【オークス】 | 社会福祉法人三篠会 10 名様、西九州大学５名様、九州医療科学大学１名様、九州医療専門学校２名様、独立行政法人自動車事故対策機構佐賀支所９名様 |
| | 【からつ・好・糸】 | か ) 早良厚生園８名様、やまびこ学園３名様、唐津看護専門学校４名様、佐賀県健康福祉部５名様、つばめ福祉会２名様、唐津特別支援学校33名様、伊万里特別支援学校３名様、佐世保特別支援学校１名様、久里小学校１名様、玉島小学校２名様、浜玉中学校１名様、波多津保育園３名様、いまり保育園１名様、あゆみ教室１名様、鬼塚中学校１名様、西九州大学１名様、好 ) 西九州大学２名様、九州医療科学大学１名様、糸 ) 今津特別支援学校４名様、糸島特別支援学校３名様、可也小学校３名様 |
| | 【日の隈】 | 救護施設しみず園13名様、社会福祉法人三篠会10名様、杵藤保健福祉事務所１名様、佐賀市福祉事務所４名様、武雄市福祉事務所２名様、鹿島市福祉事務所２名様、伊万里市福祉事務所３名様、佐賀中部保健福祉事務所１名様 |
| | 【向陽園】 | あそ上寿園４名様、久保泉地区民生委員・児童委員協議会10名様、早津江病院４名様 |
| 実習生受入 | 【こども】 | 西九州大学作業療法学専攻１名（作業療法）、西九州大学生活支援科学研究科臨床心理学専攻修士課程６名（心理）、熊本総合医療リハビリテーション学院作業療法学科１名（作業療法）、佐賀女子短期大学地域みらい学科１名（介護） |
| | 【オークス】 | 西九州大学社会福祉学科１名（SW）、西九州大学短期大学部地域生活支援学科６名（介護）、佐賀女子短期大学地域みらい学科２名（介護）、金立特別支援学校２名（就業体験）、金立特別支援学校１名（企業体験） |
| | 【清流苑】 | 西九州大学健康栄養学科２名（栄養）、西九州大学社会福祉学科３名（SW）、西九州大学スポーツ健康福祉学科１名（教員）、佐賀県医師会32名（看護）、神埼清明高校３名（介護）、神埼高校７名（体験）、佐賀女子高校13名（看護） |
| | 【からつ・好・糸】 | か)九州龍谷短期大学保育学科１名（保育）、佐賀女子短期大学子ども未来学科２名（保育）、福岡こども専門学校保育科１名(保育)、唐津看護専門学校41名(看護)、唐津特別支援学校２名 (就業・施設体験)、糸)糸島農業高校３名（職場体験） |
| | 【日の隈】 | 西九州大学短期大学部地域生活支援学科２名（介護）、麻生医療福祉&保育専門学校福祉心理学科２名（SW）、西九州大学社会福祉学科２名（SW）、肥前精神医療センター１名（実務研修） |
| | 【向陽園】 | 西九州大学社会福祉学科１名（SW） |

## 見どころ

今年も夏から秋にかけて厳しい暑さとなりましたが、各施設では趣向を凝らしたイベントや、地域の方々との交流、また佐賀県内で開催された国スポ・全障スポ等でも大いに盛り上がり、猛暑を吹き飛ばすことができました。

学園タイムスでは、今後も笑顔溢れる利用者の皆さんとの温かい日常や、活躍を満載にお伝えしていきます。お楽しみに！

社会福祉法人 人を支える 生活を支える
佐賀整肢学園
SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

■発　行：令和7年1月　■発行元：社会福祉法人　佐賀整肢学園
■発行者：理事長　中尾清一郎　■編集：法人広報誌編集委員
■表紙撮影：向野　亜里紗（かんざき日の隈寮）